

「新型コロナ対策(グローバル行動計画)に関する外相会合」
林外務大臣メッセージ(日本語仮訳)

ブリンケン国務長官、ご参加の皆様、

1年前の2月、世界各地でオミクロン株が猛威を振るう中で、我々は集い、グローバル行動計画は立ち上がった。

それから1年の間、米国のリーダーシップの下、各国・国際機関が力を合わせ、新型コロナ収束に向けた努力を重ねてきた。

我が国は、「ワクチン接種の推進」の柱をリードし、ワクチンの供給のみならず、接種体制の整備などに取り組んできた。

この一年間で、ワクチン接種の状況は大きく前進した。

しかし、依然、世界全体でのワクチンへの「公平なアクセス」の確保に向けて課題があることも事実であり、取組を継続していく必要がある。

また、目下の新型コロナ対策はもちろんのこと、新型コロナの流行が急性期を過ぎた後の対策もしかるべく見据える必要がある。

我が国は、「世界健康安全保障枠組みの強化」の柱にも、力強く貢献した。その一環として、新たに設置されたパンデミック基金への5,000万ドルの拠出を表明した。

さらに、途上国の経済社会の活性化と人的往来の再開も一層重要となっている。日本はインド太平洋地域を中心に最大1億ドル規模で支援を展開し、デジタルでの予防接種情報管理体制の整備や、感染症対策を講じた国境管理能力の強化などを支援している。

我が国は5月にG7広島サミットを開催するが、国際保健はその重要課題の一つである。

G7日本議長下においては、次の三本柱を軸に議論する。①グローバルヘルス・アーキテクチャの構築・強化、②より強靱、公平かつ持続可能なUHC達成への貢献、③ヘルス・イノベーションの促進。

我が国は、新型コロナの収束はもとより、新型コロナ後のより良い健康安全保障の構築やUHCの達成、すなわち、誰一人取り残さない社会の実現のために、引き続きこの分野でリーダーシップを発揮していく決意である。

GAPをここまでリードしてきた米国及びGAP参加国、G20諸国、WHOをはじめとする関係機関とも引き続き緊密に協力していきたい。

ありがとうございました。

(了)